



波乱の幕開けとなりましたが、今年もみんなのデータサイトの取り組みをご支援ください！

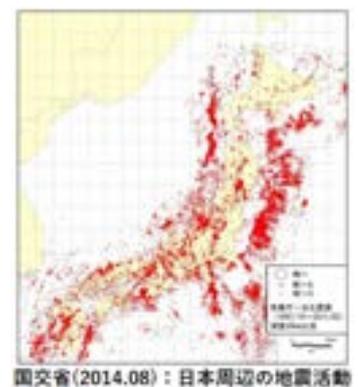
年明け初日、直下型能登半島地震によって突然且つ瞬時の住居崩壊や津波等によって、犠牲となられた皆様に心からお悔やみを申し上げます。また、今も避難生活を余儀なくされている皆様や災害復旧・復興に尽力されている皆様の行動に激励と支援のエールを送ります。

翌日には羽田の飛行機衝突事故もあって波乱の幕開けとなりましたが、みんなのデータサイトは、今年も“測って判断”を基本に東電福島第一原子力発電所事故に伴って環境に放出された放射性物質の汚染実態を食品や土壌などの放射能測定を通して明らかにしつつ、放射線被ばくの低減化を目指して放射能調査プロジェクトや学習会、ウェブサイトの改良による利便性向上など、やるべきこと・やれることに取り組んでいきます！



さて、能登半島地震の報で瞬時に懸念されたのは、志賀原発（1・2号機停止中）のことではなかったでしょうか。直後の報道は、「各原発に異常なし」とのことでしたが、柏崎刈羽原発（1～7号機停止中）では使用済み核燃料プールの水漏れを知らされました。志賀原発に至っては当然そのレベルでは収まりません。最大震度7は震源地の南東約70kmの志賀町でした。北方沖の逆断層が約150kmにわたってずれ動き、陸地海岸線が最大で幅200mほど隆起し、海面からの高さが最大4mにもなったのです。最大震度地点から6km南の海岸線にある志賀原発では、外部電源一部停止、変圧器からの大量の油漏れ（2万8800立米）、使用済み核燃料プールからの溢水、1000ガル対応の基準地振動に対して志賀町の揺れの最大加速度は2826ガルでした。さらに、空間線量率計測用モニタリングポスト116台のうち北側の18台の情報が得られなくなっていました。原発が停止中でよかった！ 実際に稼働していたら、またもや核の大惨事

を招く事態でした。現行の指針では、モニタリングデータを基に住民の被ばく回避行動を決めることになっているからです。仮に避難しようとしてもすでに道路は破壊・寸断されています。国は原発の避難計画を当該地方公共団体まかせにしている、避難計画に関しては原子力規制委員会の審査がないのです。原発の避難計画に実行性のないことが、またもや露呈しました。今回の本震であるマグニチュード7.6の震源地は石川県珠洲市高屋町付近でした。かつて関電、中電、北陸電力の原発計画があった所で、27年間にわたる住民の阻止活動で2003年に凍結されました。本当に感謝です！（財）国土技術研究センターによれば、マグニチュード6.0以上の地震は全世界の17.9%が日本周辺で発生しています。地震大国日本には原発に頼らない暮らしが必須です。



国土省(2014.08)：日本周辺の地震活動

さて、福島第一原発ではALPS処理汚染水の海洋放出が続いています。今も山側から流入する地下水に対して、地下水バイパス・サブドレイン・陸側遮水壁等の対策は取られています。これらをかいくぐった地下水が原子炉内の燃料デブリ等と接触することによって、日量約100立米（東電の2025年までの計画値）の汚染水が発生しています。これ



経度者：汚染水発生メカニズム

以外にも海側遮水壁からの漏洩など管理できていない汚染水の存在も指摘されています。汚染水の発生源を断つことこそ、政府・東電のやるべきことです。山側地下水の流入阻止対策を強化し、事故炉は石棺空冷方式にすべきだと思います。

現在、みんなのデータサイトでは、各市民放射能測定室の測定データをウェブサイト上で公開するという事業をベースにしながら、今号で紹介するプロジェクトにも取り組んでいます。

今後とも、みんなのデータサイトの活動に関心を持ち、各種活動への参加や御意見・応援をよろしく願います。

NPO 法人みんなのデータサイト 理事長 大沼章子

で富岡町に移住。移住決断の最大の難問は放射能汚染地での子育て。香織さんのその悩みは今も尽きず、積算線量計 D シャトルを携帯して被ばく線量の確認を怠りません。健康の維持が最大の課題ですが、環境 NGO での体験を活かした町作り・暮らし作りを目指しながら、富岡町で脱原発・廃炉を見届けるという強固な意志を感じました。保養も心がけつつ、お二人の意思が貫けることを願うばかりです。

南相馬市小高区、JR 常磐線小高駅前の双葉屋旅館の小林岳紀さんと小林知子さんに面談。お二人は、原町区にある放射能測定センター・南相馬（とどけ鳥）のメンバーですから、活動の様子を伺うと共に、原町区に移動して測定室も見学させていただきました。事故直後のとどけ鳥の設立や南相馬市全域と浪江町内の空間線量率のメッシュマップの作成に貢献したチェルノブイリ救援中部が撤退し、現在は小林ご夫妻と他 2 名による測定活動が主力とのこと。測定器は複数台所有。大型ヨウ化セシウムシンチレーター検出器を装備して試料を刻まずにそのまま測る測定器もあり、全て寄贈によるものだそうです。とどけ鳥では、継続的に掃除機ゴミの測定を実施されていましたので、キャラバンの主目的に沿った話も盛り上がりました。その測定手法と共に重要なデータを提供していただいた、ご夫妻に感謝です。また、同じ市民放射能測定所の仲間として、今後もお付き合いできるきっかけになったと嬉しくもありました。

伊達市の阿武隈急行線高子駅近くの公共施設で、伊達市議の島明美さんと福島市議の佐原真紀さんに面談。お二人からは議会の放射能汚染問題に関する反応の鈍さが話されたこともあり、それでも訴え続けることの必要性を確認し合う機会となりました。



なお、キャラバンの宿泊先は、1 泊目は飯坂温泉のほりえ屋旅館で素泊まり、2・3 泊目は南相馬市小高区の民家「おれ伝レジデンス」で自炊でした。おれ伝レジデンスは、まさに、今野さんが建設当初から関わり副館長でもある「おれ達の伝承館（2023 年 7 月開館、館長：中筋 純）」の近くで、空き倉庫を改装しておれ達（自分ごと）の美術館を作るために集まったアーティストや支援者が寝泊まりするためのレジデンスでした。おれ達の伝承館では、原発事故直後に南相馬市から岐阜県に避難し 2019 年春に成長した子どもたちを避難先に残して帰還した濱岡由美さんにも合流してもらって一緒に観賞しました。アート作品が訴える、原発事故、消滅した故郷の過去・今・未来。手弁当で集まったアーティストの皆さんのイメージが、どれほど読み取れ、感じ取れたかは甚だ自信がありませんが、私的には数値や単なるマップで示された事実とは違った、心にせまるものがありました。制作中の光景も盛り込んで天井一面に描かれた絵は、圧巻でした。

以上、具体的な話には持っていきませんでした。キャラバンを実施してよかったと思っています。こうしたつながりが、世の中を変えて行く力になるかもという希望につながるのだと思います。（大沼章子）



2023 年 12 月 13 日 請戸漁港
南方に東電第一原発を見る



プロジェクト・活動紹介

みんなのデータサイトでは、総会で年次計画を決め、大小さまざまなプロジェクトを進行しています。今回は4つのプロジェクトについて、各プロジェクトを牽引するリーダーから簡単に活動内容・近況を報告します。

(継続) 旬のもの(春:タケノコ・山菜、秋:野生キノコ)測定プロジェクト 大沼章子

福島第一原発事故から13年目に入ろうとする現在、環境中に放出された放射性セシウムが事故時の38%にまで自然減衰したことで、生産者の皆さんの努力とご協力で、流通する一般食品が基準を超えることはほとんどなく、検出下限値を上回って数値化される食品も限定的です。しかし、山野に放出された放射性セシウムは38%にまで減ったとはいえ、今後も長く環境中に留まります。野生獣肉を始めとする野生の食品には、まだまだ注意が必要です。

みんなのデータでは、2019年春の全国タケノコ測定プロジェクトに取り組んで以降、通常の食品測定とは別に、旬のものプロジェクトとして、春はタケノコ・山菜測定、秋は野生キノコ測定を実施しています。是非、内部被ばくを避けるための参考にしていただきたいです。なお、基準超過品に関しては行政機関に連絡して、出荷制限等の関係者への周知徹底や監視体制の強化をお願いしています。

(2023年スタート) 市民測定室の作り方プロジェクト(つくば市民放射能測定所・藤田康元)

3.11の原発震災後、日本各地にできた市民測定室で培われた放射能の測定技術と測定室運営のノウハウを次世代に継承できるように、『市民測定室を作る(仮題)』というガイドブックを作成するプロジェクトを進めています。昨年未だに、質問票の設計と確定、質問票送付先リストの作成、質問票の送付までを終わりました。その過程で予備調査を行い、みんなのデータサイト参加測定室の方々の協力を得ました。また、Zoomを使って、その場で質問票に回答するワークショップも実施しました。今後は、80カ所近い送付先からできるだけ多く回答を返してもらえるように努力したいと思えます。回答結果の集計・分析、インタビュー調査も進めてゆきます。

(2024年スタート) ハウスダストプロジェクト(あがのラボ・村上直行)

福島原発事故によって日本全国にばら撒かれた放射性セシウムが様々な経路を通じて家庭内に入り込んでいます。その実態を知るために全国のご家庭を対象に「掃除機ゴミパック」に捕集されたハウスダストを測定するプロジェクトを計画しています。ハウスダストは周辺の土壌等の住環境の汚染状況を敏感に反映する指標として有効と考えられています。ゴミパックを開封しての作業はダストによる2次汚染の危険性が有るため、測定者にも優しい「ゴミパックまるごと測定法」の確立を目指して検討を進めています。プロジェクトが始動した際には皆様のご協力をぜひお願いします。

(継続) 講演会、学習会事業(事務局・中村奈保子)

測定・調査結果の公開や放射能に関する知見を広め、被ばくを減らすための講演会・学習会を企画運営しています。下記はいずれもZOOM配信ですので全国各地からでも参加いただけます。ぜひお申し込みください!

<p>～原子力災害時に子どもを守るために～</p> <h2>安定ヨウ素剤配布 オンライン説明会</h2> <p>説明会開催後に説明書を送付する。安定ヨウ素剤も郵送で届けられます。</p>   <p>講師: 中山由美先生(内科医)</p> <p>2.17(土) 19:30▶START 後日視聴も可</p> <p>参加費: 680円</p>	<h3>【ZOOM講座】能登半島からの警告を読み解く</h3> <p>うごいてなくてよかった志賀原発 つくられなくてよかった珠洲原発</p>   <p>2.26(月) 19:00~21:00 ★後日視聴も可</p> <p>講師: 大田淳一(名古屋大学 元愛知核燃料循環工学センター主任研究員)</p> <p>参加無料</p>
--	---

QRコードまたはメール(minnanods@gmail.com)で前日までをお願いします。(後日動画は公開予定ですが、生配信にご参加いただけますと質疑応答等に参加できます)

今後のイベントについては、随時みんなのデータサイトのウェブサイトやFacebookページ等でお知らせします。

こんな企画をしてほしい、などのご要望もお気軽にメールでお送りください!

編集後記: 昨年はデータサイトのNPO法人化のための準備・話し合いを重ねる中で測定室の皆さん同士の理解も深まり、データサイトの足場が固まりました。しかし法人化して間もなく、発足時からの中心的団体でみんなのデータサイトの住所にもなっている「認定NPO法人ふくしま30年プロジェクト」が運営困難となり解散するという衝撃の知らせが!話し合った結果「みんなのデータサイト」が事務所等を引き継ぐこととなりました。原発事故の風化、放射能測定に対する人々の関心度の低下は否めませんが、原発事故は継続中、放射能測定はまだ必要です。引き続き測定・記録・公開を続けていきます。(事務局:中村・清水・阿部)